

山響ファンクラブの活動

担当者名 事務局長 伊藤 真一

1. 沿革

平成12年(2000年)に、Jリーグのサポーターのようなボランティアの支援団体として発足した。同年2月に発足準備会を開催し、3月に発起人会議を開催した。4月9日に山形グランドホテルに於いて設立総会が開かれ、正式に「山響ファンクラブ」としてスタートした。同年5月の第128回定期演奏会(指揮:黒岩英臣、ピアノ:田部京子)にファンクラブとして初参加した。

7月の第129回定期演奏会(指揮:小松長生、クラリネット:赤坂達三)に於いて、ファンクラブ主催の第1回ゲネプロ見学会を開催した。9月にファンクラブの会報誌である「山響ファンクラブレター」を創刊するに至った。翌平成13年(2001年)5月、山形テルサホールでの?落とし演奏会(指揮:黒岩英臣、ピアノ:アリシア・デ・ラローチャ)に当たり、ファンクラブとして準備に携わり、開館記念アルバムを作成し、オーケストラ団員全員、関係者に贈呈した。

平成14年(2002年)に総会に於いて、第2代会長に加藤聡氏(現会長)を選出した。平成16年12月には、『新潟中越地震被災者支援チャリティーイベント』を主催、山響有志の協力により天童駅ビル「パルテ」に於いて演奏を行った。平成17年5月、第1回『山響温泉グルメツアー』を開催した。このツアーは現在まで7回を数える。平成18年1月には、ソリストにメゾソプラノの林美智子を迎え、『～本田美奈子追悼～白血病撲滅チャリティーイベント』を主催し、山響有志の演奏と林美智子独唱による演奏を行った。

ゲネプロ見学会、会報誌の発行、ロビー交流会の開催、楽団員との合同企画、チャリティーイベントの主催等を柱に活動し、現在に至っている。

2. 活動状況

活動の主眼は、山形交響楽団を支援、応援し、多くの人に演奏会に来ていただき、山響をより多くの人に知って貰おうという点にある。その事が、山形さらには東北の音楽文化の浸透に少しでも寄与出来ればと願っている。その方針に従い、会報誌の発行、会員のゲネプロ見学会への参加、ロビー交流会の企画、楽団員との合同芋煮会、合同忘年会などを行っている。

楽団員と聴衆との距離が日本で最も近いプロオーケストラとの評価をいただいているが、まさに、ファンクラブとして目指している目標の一端であり、大変ありがたく感じており、さらにフレンドリーになるように努力している。

山形市はプロオーケストラが存在する都市の中では、日本で最も人口の少ない都市(25万人)である。しかし、自然に恵まれた緑豊かな街を本拠として、地方オーケストラの独自色を目指す山形交響楽団を応援すべく、スタッフ会員一同努力している。